当山の巓にあり、至つて峭壁にして登る事かたし。又門前には槙の大木ありて、株の半より数十本にわかれおの〳〵直に生立ぬ。又当山の北滑谷といふ所は、むかし俊寛僧都の室家一族こゝに忍び住しといふ。今も当山本堂の下にはかの一類の塚あり。九町坂は谷を隔て南の方なり、いにしへの往還にして、勅使も此道より来与し給ふとなん。此坂の登り口に天満宮鎮坐ます、これを知所路天神となづく、今は路埋れ草深ふして通ふ者稀なり。久多瀧は遼此奥山にして飛泉数丈なり、此所開山上人の一の行場にして、今もをりふしは此瀧より幻現し給ふよし人の申き。山城丹波の国堺は当寺より半里ばかり北にあり。都て此地の名産は別所大布施より出て、常に山中を棲とし農業少く樵多くして、所々に炭竈を作りて煙絶ず。女は炭薪を首に戴き牛馬につけて鞍馬の市に運ぶ、あるは床の杉柱、杉皮、庭石〔世に鞍馬石といふ〕等なり。

花瀬峠〔鞍馬の北にあり。此間に唐櫃岩といふ大巌あり、高さ廿五丈余、又摺鉢石といふあり、大さ八尺ばかり、摺鉢の形に似たり。又桜紅葉の寄生樹あり、至つて大木にして甚奇なり。又桧の株一本にして枝数十本に立生ぬ、これを千本桧といふ。此所山水の景色美にして千巌秀を競ひ万壑流れを争ふの名勝なり〕

車坂〔上加茂より乾の方十四五町にあり。此坂を車坂といふは、むかし惟喬親王小野に閑居し給ふとき此所まで乗車し給ひ、これより嶮路なるゆゑ車を此所に乗捨給ひしとぞ、故に此名ありといふ〕

満樹峠〔車坂の北半里登る事半里、坂路嶮岨なり〕

雲畑〔峠の北一里余にあり、是より北の方村里の惣名なり。口畑、中塚河、中畑、出谷、奥畑等なり。むかし薬王菩薩出現し給ひ、諸の薬草薫じ雲の如く見えしより号なり〕

牛若丸宅地〔中塚河の東南より鞍馬へ越る山中の中間にあり。いにしへ牛若丸此所に住しとなり。今古松一株あり、これ鐘楼松といふ、由縁不レ詳〕

惟喬般若〔中畑村総堂にあり。むかし九龍山高雲寺といふ寺あつて、惟喬親王の設給ふ旧跡なり。大般若経并同経説相画図絹地一軸あり〕

雌鳥社（めんどり）〔出谷（でたに）村の北にあり、祭神（さいじん）未考。いにしへ惟喬親王（これたかしんわう）田猟（でんれふ）し給ふ時寵愛の雌鳥（めんどり）此所にて斃れしなり、故にこゝに祠を建しといふ〕

岩屋一鳥居（いはやいちのとりゐ）〔出谷（でたに）村の北にあり、往還の中に立てゆきゝの人其中を通るなり。額紫銅をもつて岩屋（いはや）山と鐫て小野（をの）道風（たうふう）の筆なり。是より岩屋（いはや）山までは十六町あり、坂路の左右に桜多し、後奈良院（ごならのゐん）八百株の桜を御寄附ありしといふ〕